『観光』✕『工芸』
沖縄くるくる周遊大作戦

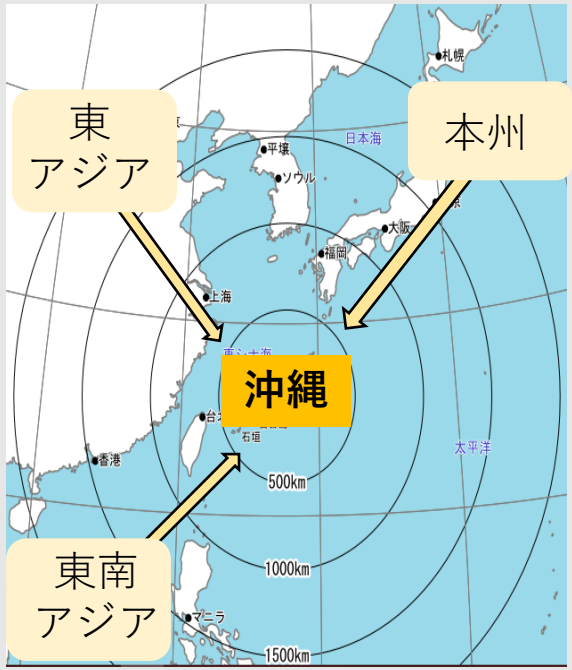
地方自治体あり方変え隊

もくじ

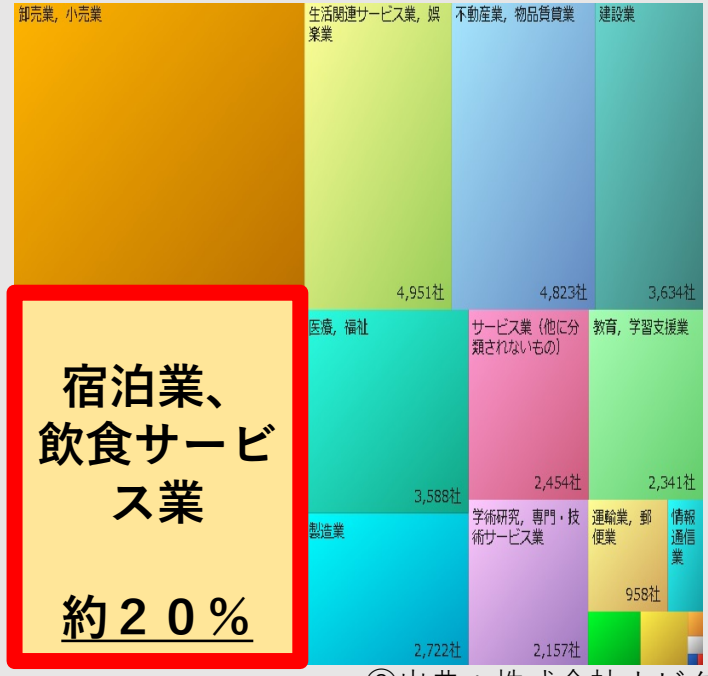
１．沖縄県の概要
２．観光関連産業の現状
３．工芸産業の現状
４．「観光」と「工芸」の掛け合わせ
５．政策アイディア全体像
６．「首里染織館suikara」のスキーム

1．沖縄県の概要

①地理的優位性

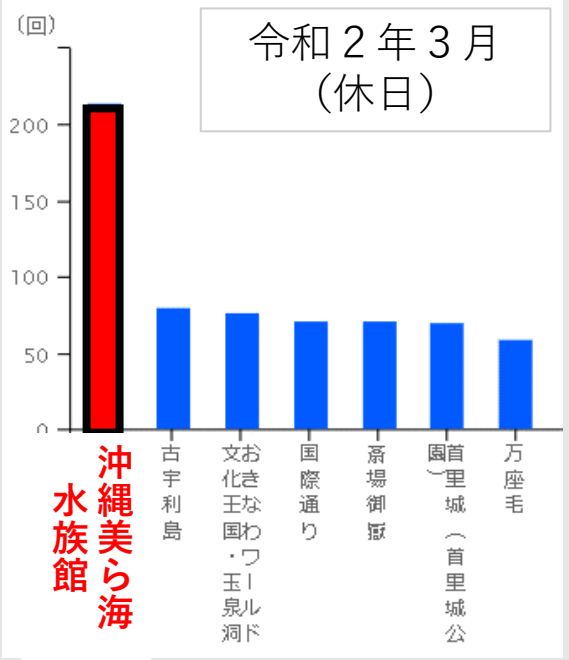


②観光関連企業



・②出典：

③一極集中



・③出典：株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」

①沖縄県は、大小160の島しょから構成されており、本州と東南アジアとのほぼ中間に位置。海外（東南アジアや東アジアなど）の**観光需要を取り込みやすい**。

②**リーディング産業は、観光産業**。５社に１社は「宿泊業、飲食サービス業」（観光関連産業）であり、観光客の消費（ホテル、飲食、お土産など）が沖縄経済に大きく貢献。

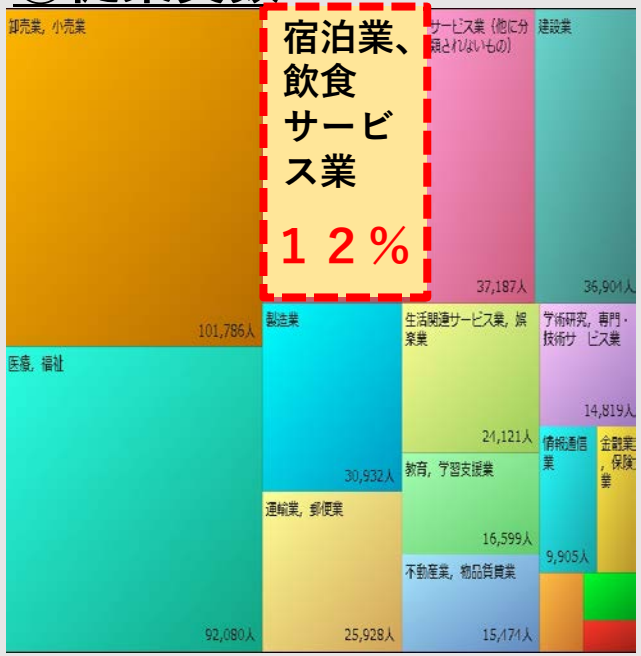
③多くの観光客は「美ら海水族館」を訪れている。他の観光地と比較して、２倍以上の差が生じており、**美ら海水族館以外の観光地への周遊を促す必要性を感じる**。

2．観光関連産業の現状（1/2）

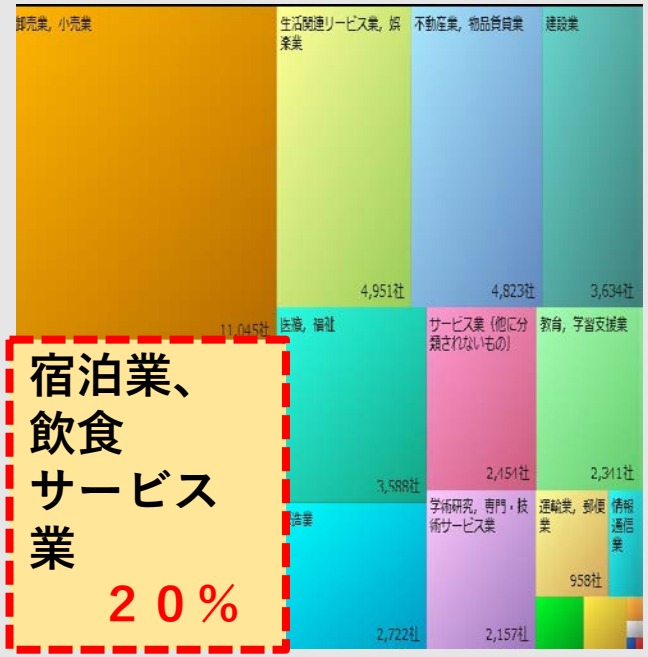
RESAS

【観光関連産業（宿泊業、飲食サービス業）に注目】

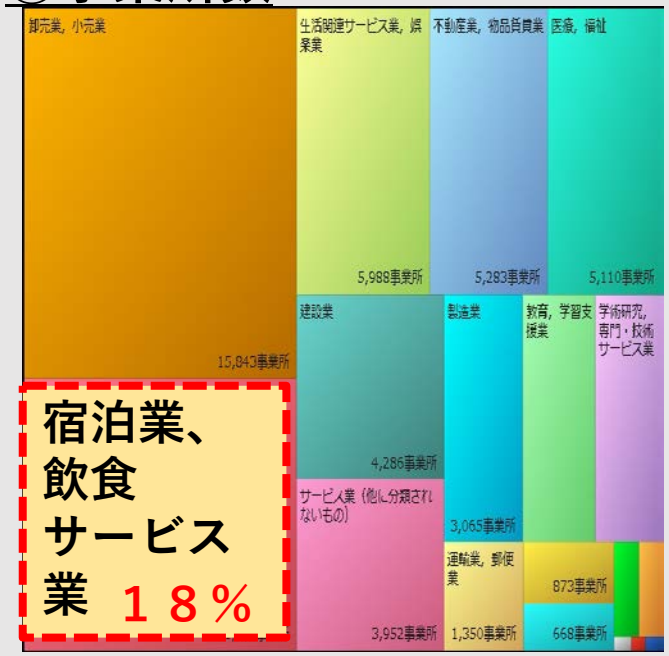
④従業員数



⑤企業数



⑥事業所数



・④⑤⑥出典：総務省「経済センサス－基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサス－活動調査」再編加工

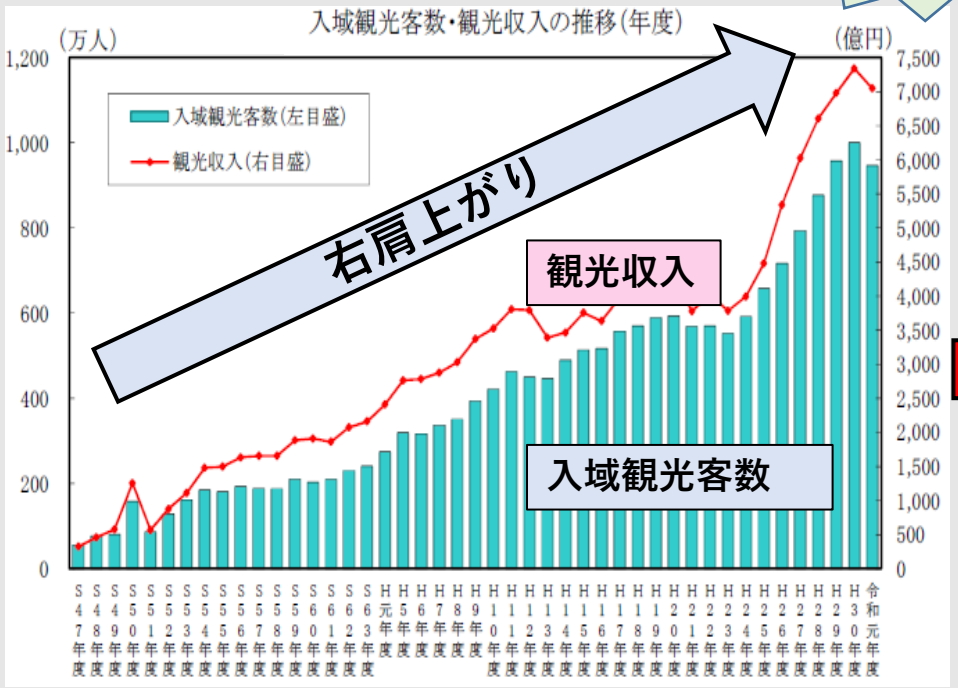
★全産業に占める「④従業員数」、「⑤企業数」、「⑥事業所数」が全国平均に比べて高い。

	④従業員数	⑤企業数	⑥事業所数
沖縄	順位：３位 比率：１２％	順位：２位 比率：２０％	順位：２位 比率：１８％
全国	順位：５位 比率：９％	順位：２位 比率：１３％	順位：２位 比率：１３％

2．観光関連産業の現状（2/2）

⑦入域観光客数・観光収入の推移

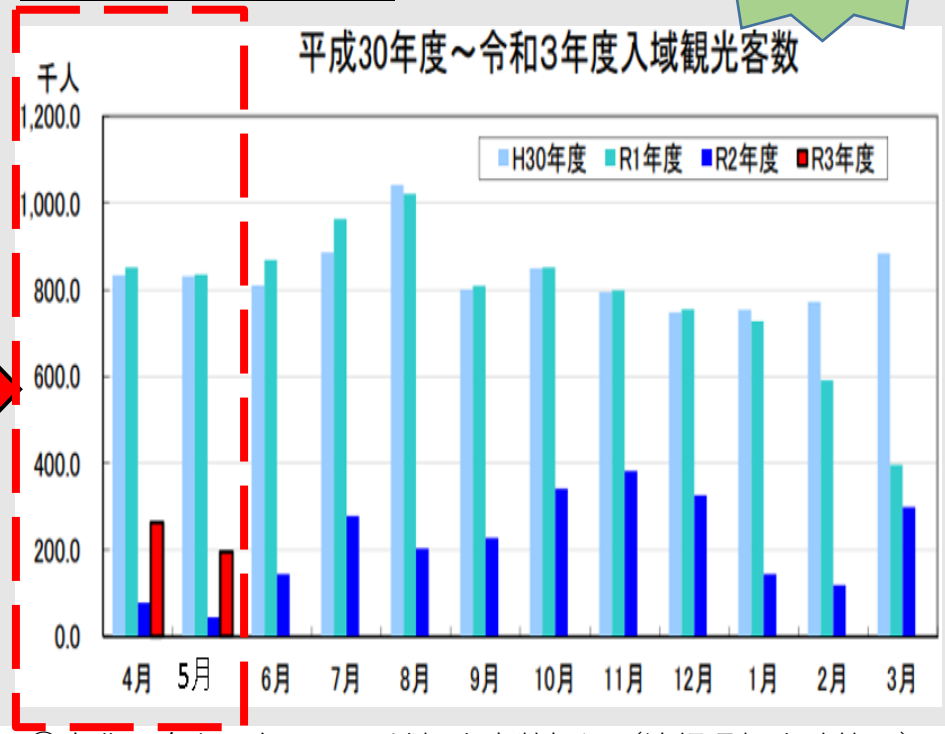
コロナ前



・⑦出典：入域観光客数と観光収入の推移（沖縄県観光政策課）

⑧入域観光客数

コロナ禍



・⑧出典：令和３年５月 入域観光客数概況（沖縄県観光政策課）

⑦**観光客数：７年連続（H24～H30）増加**。平成３０年度は大台の１，０００万人を突破。
観光収入：７年連続（H24～H30）増加。平成３０年度は７，２５７億円。
⑧コロナ前（Ｈ３０年５月）とコロナ禍（Ｒ３年５月）の観光客数を比較すると、**同月比で観光客数は約－７６％（約６３万人）の減少**。
緊急事態宣言などの人流抑制政策により観光客数が大きく減少。
観光関連産業を主軸とする沖縄経済には、大きな打撃となった。

3．工芸産業の現状（1/3）

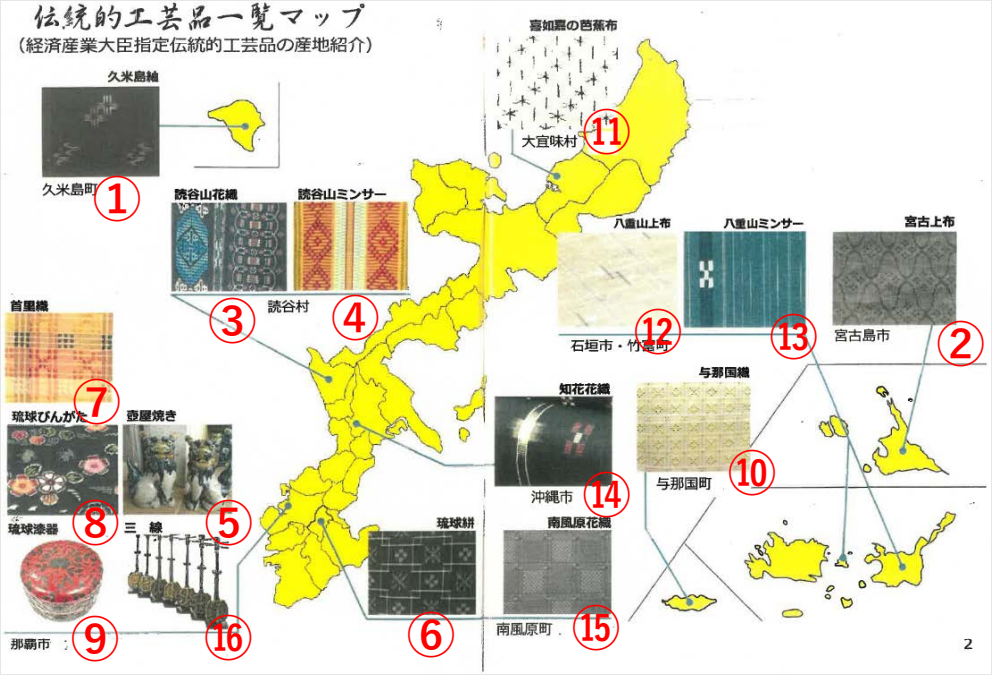
⑨伝統的工芸品とは

以下の5項目を全て満たし、伝統的工芸品産業の振興に関する法律に基づき、**経済産業大臣の指定を受けた工芸品**のこと。

1．主として日常生活の用に供されるもの
2．その製造過程の主要部分が手工業的
3．伝統的な技術又は技法により製造されるもの
4．伝統的に使用されてきた原材料が主たる原材料として用いられ、製造されるもの
5．一定の地域において少なくない数の者がその製造を行い、又はその製造に従事しているもの

伝統マーク

⑩一覧マップ



・⑩出典：沖縄の伝統的工芸品～沖縄の魅力を高める先人からの贈り物～
（内閣府 沖縄総合事務局 経済産業部 地域経済課）

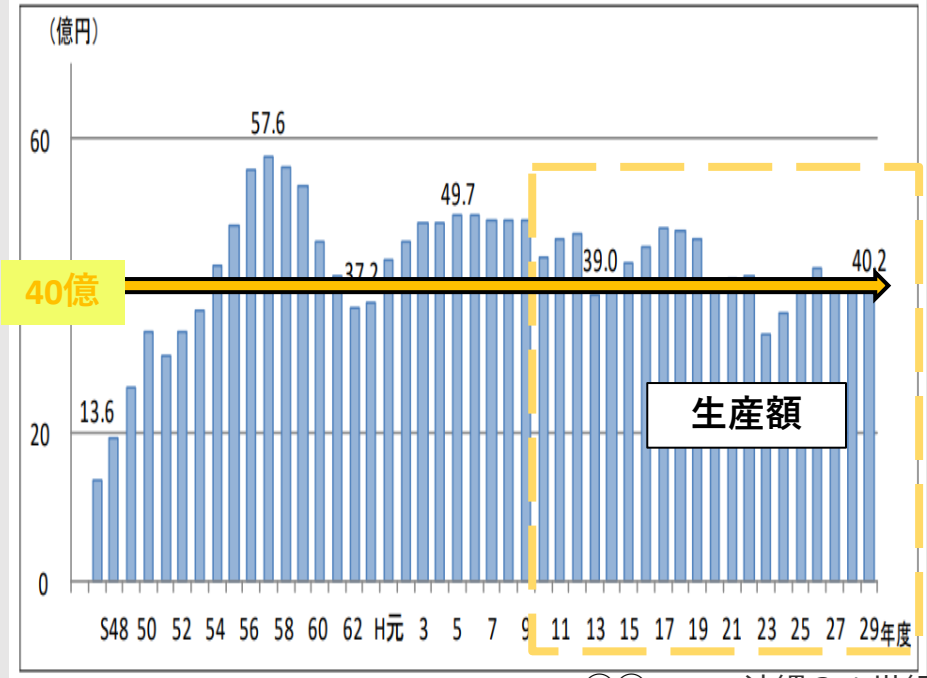
沖縄県には、国指定の伝統的工芸品が16品目あり、品数は全国第3位。（R3.1.15日時点）
全国有数の伝統的工芸品の産地である。（1位 東京18、2位 京都17、同率3位 新潟16）

国指定の伝統的工芸品（指定順）

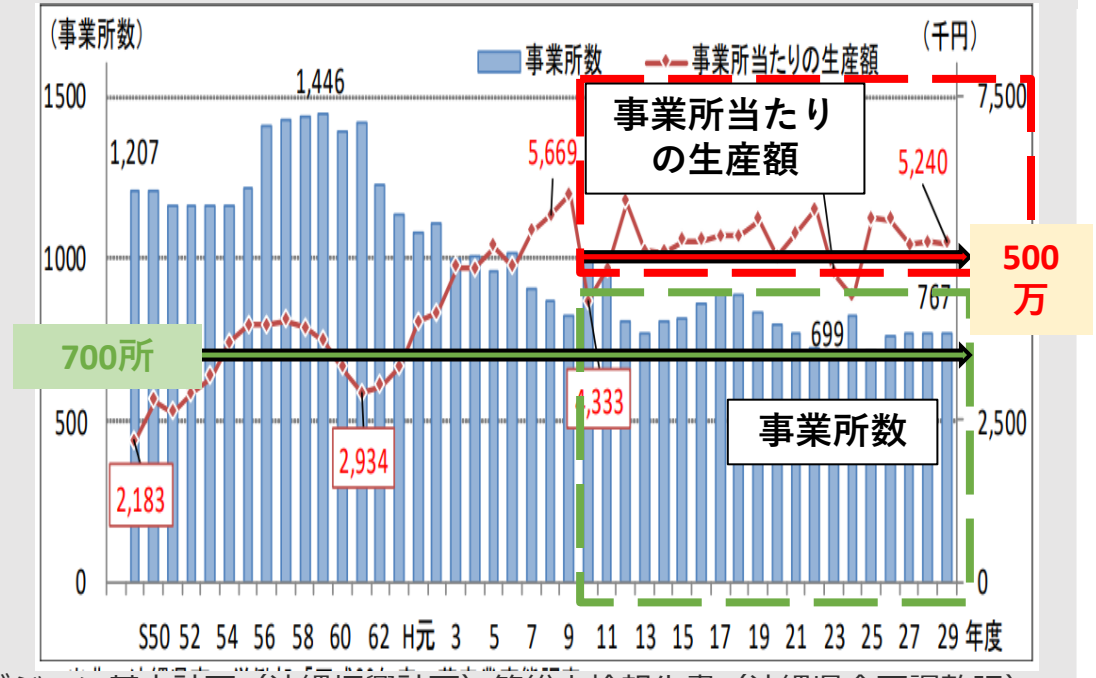
①久米島紬	②宮古上布	③読谷花織	④読谷ミンサー
⑤壺屋焼	⑥琉球絣	⑦首里織	⑧琉球びんがた
⑨琉球漆器	⑩与那国織	⑪喜如嘉の芭蕉布	⑫八重山上布
⑬八重山ミンサー	⑭知花花織	⑮南風原花織	⑯三線

3．工芸産業の現状（2/3）

⑪工芸産業生産額（全体）



⑫工芸産業事業所数、事業所当たりの生産額(全体)

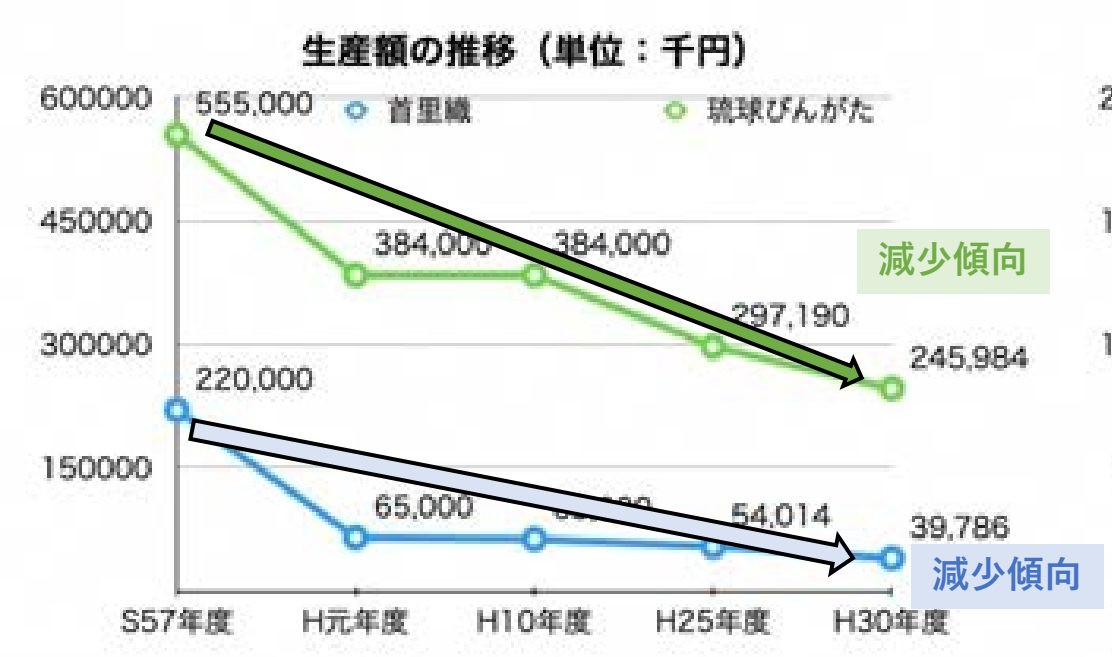


・⑪⑫□ □ □ 沖縄２１世紀ビジョン基本計画（沖縄振興計画）等総点検報告書（沖縄県企画調整課）

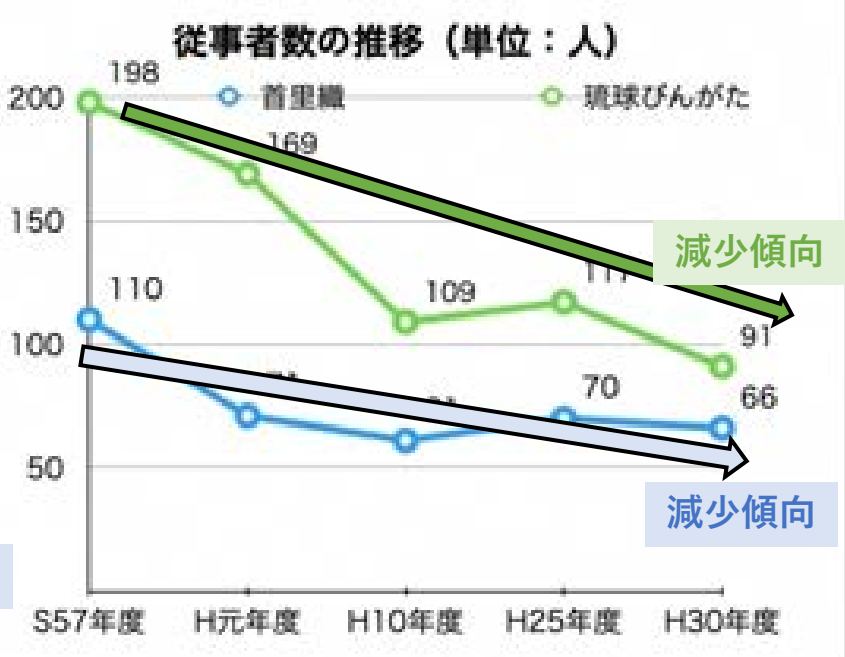
⑪生産額は、ピーク時（昭和５７年57.6億円）に比べて、約３０％の減少。
　しかし、直近２０年間は**堅調に４０億円前後で推移**している。
⑫工芸産業事業所数は、ピーク時（昭和５９年1,446事業所）に比べて、約５０％の減少。
　しかし、直近２０年間は**堅調に７００所前後で推移**している。
　事業所当たりの生産額は、ピーク時（平成９年約570万円）に比べて、約８％の減少。
　しかし、直近２０年間は**堅調に５００万円前後で推移**している。

３．工芸産業の現状（３/３）

⑬琉球びんがたと首里織の生産額



⑭琉球びんがたと首里織の従業者数



・⑬⑭出典：令和元年度　工芸産業施策の概要（沖縄県ものづくり振興課）

⑬Ｓ５７年度から生産額が減少傾向であり。Ｓ５７年度とＨ３０年度を比較すると、
琉球びんがたは約５６％、**首里織は約８２％減少**。

⑭Ｓ５７年度から従業者数が減少傾向であり。Ｓ５７年度とＨ３０年度を比較すると、
琉球びんがたは約５４％、**首里織は約４０％減少**。

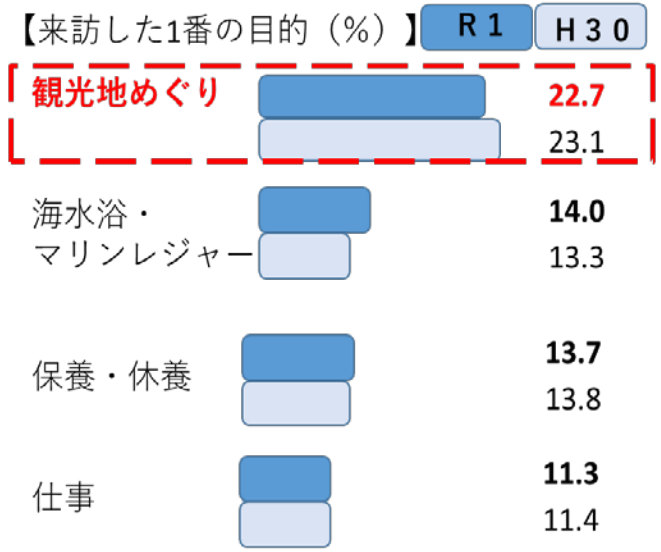
※生産額及び従業者数が減少している要因として、両組合の主要販路である着物小売市場の減少が想定される。（「Ｈ10年 1兆700億円」→「Ｈ29年 2,880億円」　約73％減少）

・出典：きものと宝飾社調べ

4．「観光」と「工芸」の掛け合わせ

観光目的の１位は「観光地めぐり」！

観光客のニーズ（観光目的）



出典：令和元年度観光統計実態調査報告書(令和2年10月5日公表)

掛け合わせ

工芸品の良さを広めたい！

琉球びんがた&首里織

- 染物と織物の**親和性が高い**
- 両組合の課題は類似
  （生産額・従業者数を増加したい）
- 両組合の**発展・技術の継承**

観光 × 工芸

→ 観光客の新たな受け皿を創出（観光ニーズの喚起）

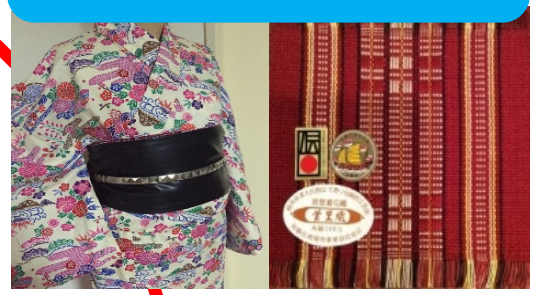
→ 観光需要を創出（工芸産業の活性化）

→ **「周遊を喚起！」**
沖縄の「工芸」を周遊観光してもらう仕組み作り

5．政策アイディア全体像

観光

工芸



観光×工芸
拠点施設の建設
『首里染織館suikara』

※沖縄方言で首里は「スイ（sui）」
「首里から（suikara）発信」との想い
を込めて命名

売上増加

情報発信
（各産地+世界遺産）

6．「首里染織館suikara」のスキーム （1/3）

概要

事業概要

琉球びんがたや首里織などをはじめとする沖縄固有の染物や織物の職人の育成機能、制作体験機能、展示機能、観光情報発信機能を備えた施設を整備する。

・事業期間：Ｒ1～Ｒ3年度
・総事業費：759百万円（見込み）
（国８割、市１割、両組合１割負担）

公共性

認定9市町村と密接な連携のもと、
・染物・織物文化の継承と発展
・県内の染物や織物に関する展示販売施設(※)や世界遺産群への周遊の促進を目指すこと。

事業目的

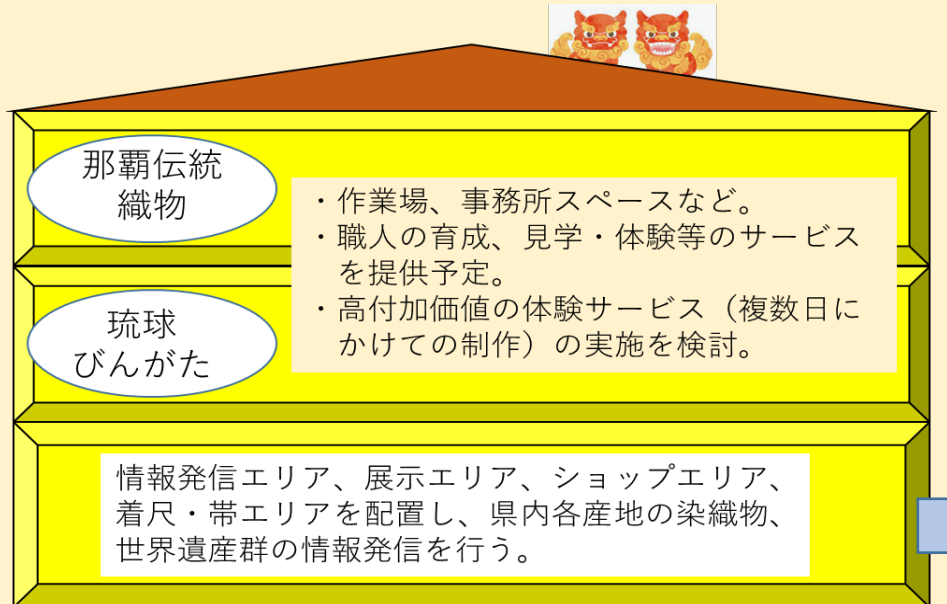
①染物・織物文化の担い手の育成及び知名度向上ゆかりの地や、琉球王朝に関連する世界遺産群への回遊性の向上
②県内の染物・織物のゆかりの地や、琉球王朝に関連する世界遺産群への回遊性の向上

成果目標

【成果目標】
①県内の染物や織物に関する展示販売拠点や琉球王朝に関連する世界遺産群への回遊者数　年間5万人
②育成した後継者のうち、工房に新規就労した数　年10人

外観イメージ

施設フロア（階層別）



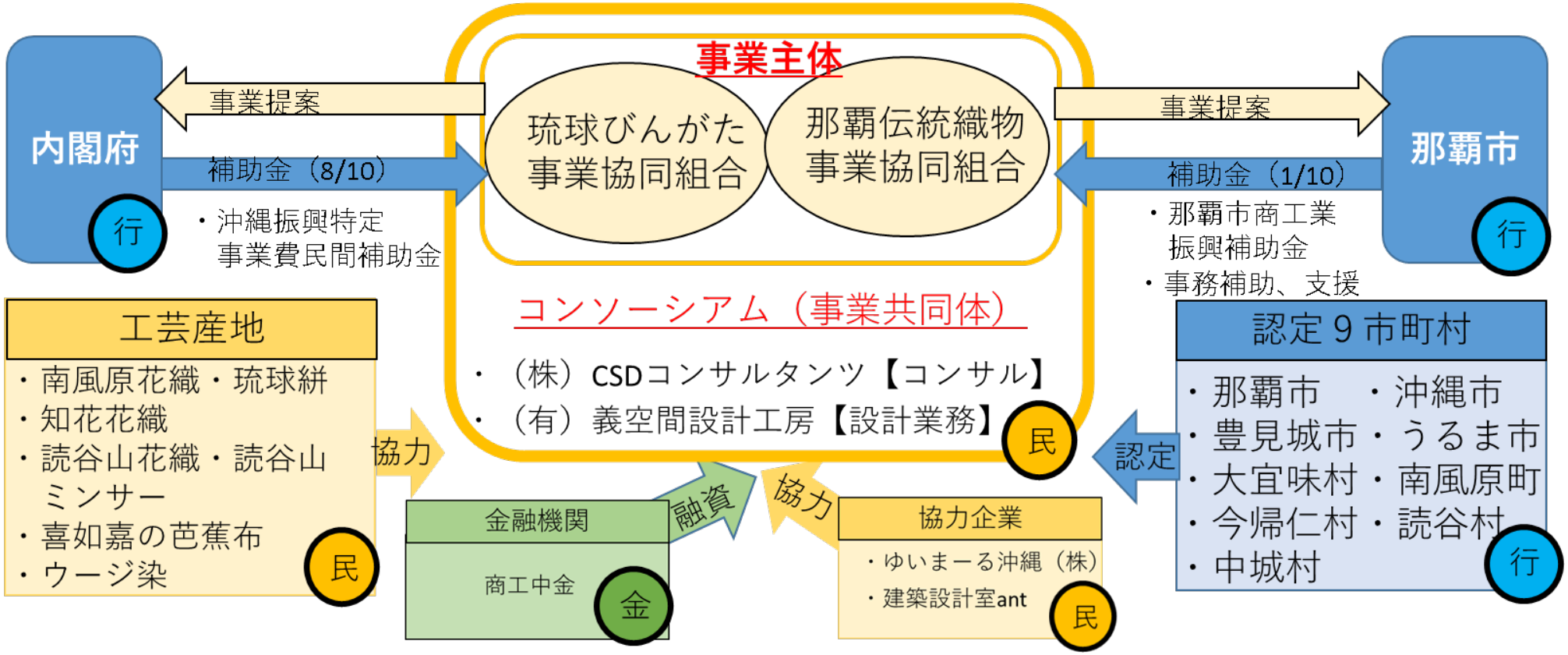
敷地面積
901.64㎡

建築面積
561.07㎡
(62.23％)

延床面積
1,476.25㎡
(163.73％)

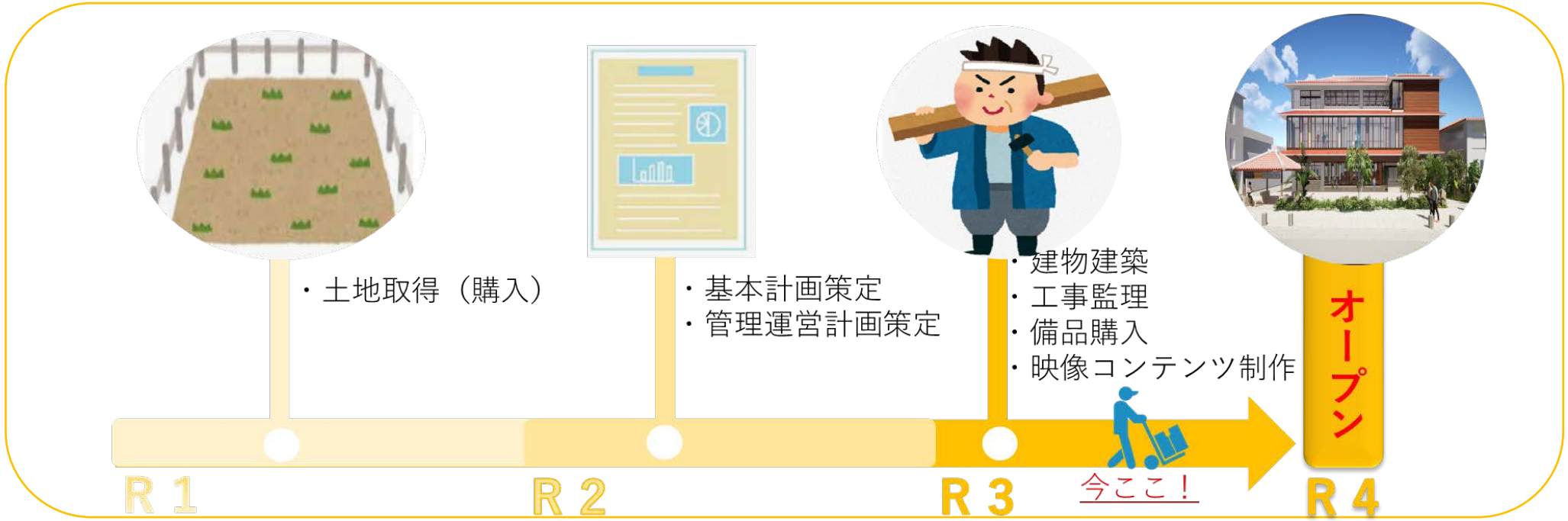
１Ｆゾーニング

6．「首里染織館suikara」のスキーム （2/3）



・両組合が、拠点施設建設について内閣府及び那覇市に事業提案し、両者から採択・補助金交付決定を受ける。※事業提案要件として、他市町村から本提案についての認定（横展開・波及効果の実現性）を受けることが条件であり、９市町村の認定を得る。
・各工芸産地と連携し、本施設で各産地の情報発信も行い、工芸産地全体を盛り上げていく。
・両組合は、本事業を効率的に進めるため、コンソーシアムにより事業実施体制を構築。
・本市は、両組合を支援するため、独自に補助金（那覇市商工業振興補助金）を交付。本事業の成功に向けて事務補助や支援などを行っている。（事務手続きや事業実施の助言等）

6．「首里染織館suikara」のスキーム　（3/3）



城間幹子　那覇市長も出席！

染織拠点で工事
安全祈願祭行う

【那覇】琉球びんがた事業協同組合（屋冨祖幸子理事長）と那覇伝統織物事業協同組合が、那覇市首里当蔵町で整備を進める染物・織物の拠点施設の建設工事で8日、安全祈願祭を行った＝写真。

地上3階建ての施設は、作業場や展示・販売スペースを備え、地域や観光客に開かれた場所となる。

事業費は9億円余で、8割は国の沖縄振興特定事業推進費、1割は那覇市、1割は両組合が負担する。2021年度末の完成を目指す。

□□□□□□□□□□□　R3.5.18□

名称「首里染織館suikara」

琉球びんがた事業協同組合と那覇伝統織物事業協同組合は29日、首里に整備している新拠点施設の名称を「首里染織館suikara」に決めたと発表した。同施設を運営する法人「suikara」（譜久山健代表）も7月中に設立すると発表した。

同施設は2022年5月のオープンを予定している。両組合の作業場と事務所が入居するほか、着尺や帯の販売、製作体験、首里織の着物の着付け体験などを提供する。職人と消費者が直接交流できる場所を目指す。

suikaraは7人の取締役と1人の監査役で構成される。メンバーには琉球びんがた事業協同組合の屋冨祖幸子理事長や那覇伝統織物事業協同組合の赤嶺真澄理事長のほか、経営支援を手がけるCSDコンサルタンツの西里喜明代表や、雑誌「モモト」編集長のいのうえちず氏なども加わる。活動に賛同する企業や団体から出資を募る。

譜久山代表は「文化を生業としている人が経済的に豊かになるように、拠点を通して伝統工芸品の販売や付加価値をつけた体験サービスを提供したい」と話した。

紅型・首里織拠点施設　運営法人も設立へ

suikaraの設立を発表する（左から）譜久山健代表、琉球びんがた事業協同組合の瑞慶山和子副理事長、那覇伝統織物事業協同組合の赤嶺真澄理事長、東洋企画印刷のいのうえちず編集長＝6月29日、那覇市首里の那覇伝統織物事業協同組合

suikara プレス発表（琉球新報　R3.7.1）

名称は首里染織館suikara

紅型と織物拠点 来年5月開館へ

suikara プレス発表（沖縄タイムス　R3.7.12 ）

ご静聴ありがとう
ございました！